

活動状況報告（11月）

スポーツコース 5期生 太田 ゆき菜

今月はアメリカでの私の一日を紹介したいと思います。今回の留学は特にコースがある訳ではなくオリジナルなため、日本にいる時から学びたいことに対して facebook やメールを使ってコンタクトをとり、細かくは現地についてから各分野を統括してる人達のオフィスに行き、それぞれとコミュニケーションをとって色々な経験ができるようにスケジュールを組みました。苦勞したこともありましたが、それもまた勉強になりました。限られた時間と自分のキャパ、そして全てに相手があるものの中で何をどう学びたいのかを考えながらスケジュールを組んでいます。イリノイ大学はそれぞれにスペシャリストがいるので、想像していた以上にパラスポーツや障がいを持った学生環境などを学ぶには素晴らしいところだと思います。それでは私のアメリカでの1日の流れです。

朝は5:00過ぎに起床し、6:00には体育館に行って物品準備などをします。イリノイ大学には車いすバスケットボールと車いす陸上の2つのアダプティブスポーツチームがあり、曜日ごとにどちらの練習にも参加しています。6:30からチームの全体練習が始まり、8:30過ぎに終了したら急いで授業に向かいます。キャンパスがものすごく広大なため1km以上の移動になります。バスシステムが発達していますが、アメリカあるあるで時間には基本来ないので怪しい時は走ります。最近はやっと道も覚えたので自分の足が一番確実です。途中お昼休みを挟みながら9:00から14:50まで授業を受けて、また走って移動し、15:00から disability センター内の Gym 兼リハ室でパラアスリート達のトレーニングサポートや障がいを持った学生のリハビリを行います。空いている時間にはクラシファイアの資格を持っているPTの方にクラス分けを教わっています。トレーニングのサポートが終わると体育館に移動し、車いすバスケットボールチームのスマールグループでの練習に参加します。18:00過ぎにはひと段落し、その後は英語のプログラムが入っていたり、大量の宿題をやったり、夕食を食べたりして時間を過ごします。こんな感じで動き回っているうちにあっという間に1日が過ぎ去ります。月曜日から金曜日までは基本的にこのスケジュールで1日を過ごし、週末は遠征の帯同など何らかのイベントがあることが多いです。充実した毎日を過ごせていることに感謝です。

また、今月は千歳リハビリテーション大学のPTOT 学生さん達にオンラインで講義する機会をいただき、アメリカの様子や私の活動を紹介し、就職ではなく留学を選択した理由やパラスポーツのお話、そしてみらチャレの紹介などをしました。学生の皆さんにアンケートをとったところ、87.5%が何らかの形でパラスポーツを観たことはあるが実際に体験したことがあるのは12.5%とわずかであり、パラスポーツは体験することが重要なので、実際に体験できる機会の必要性が伺えました。また障がいを持った子供たちのスポーツ機会を増やすために、医療系大学でのパラスポーツの講義、体験、病院内でのパラスポーツ教室実施、障がいを持っていない子供達にも広める、外出しやすいような環境づくりなどの意見が寄せられました。留学に興味がある学生は43.8%と半数には満たないものの40%以上の学生が興味を持っており、今回留学中の情報をお届けしたことで若者達の選択肢の幅が少しでも広がったら嬉しいです。私が留学のテーマにも掲げている北海道の医療とパラスポーツの連携を進める上でPTOT 学生の皆さんはとても重要な役割を担っていて、PTOT がパラスポーツの情報を持つためにも、学生のうちに一度触れておくというのはとても大切な要素であると思います。イリノイ大学では車いすバスケットボールチームのマネージャー

に健常のイカツイ男子学生が参加しています。マネージャーに応募した理由を彼は“cool!!!”と答えました。“だって車いすバスケもそれをする彼らもめっちゃカッコいいしょ。それだけ。”とっており、そのシンプルな理由がなんだかとても素敵に感じました。本当に人が動くときは心が動いたときだと思います。引き続きパラスポーツの魅力を医療関係者の皆さんにも積極的に発信していきたいと思います。

